



公益財団法人 パナソニック教育財団

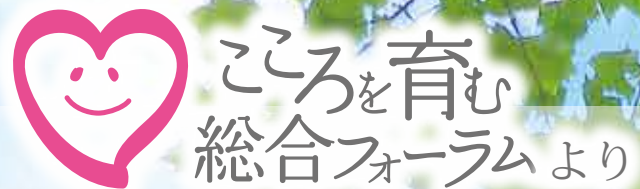
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-10 第2ローレルビル6階
TEL.03-5521-6100 FAX.03-5521-6200
URL <http://www.kokoro-forum.jp/>



こころを育む総合フォーラム
2018年度

活動報告書

公益財団法人 パナソニック教育財団



「こころを育む総合フォーラム」は、昨今の様々な社会事象から浮かび上がる日本人のこころの荒廃に危機感を抱き、はどめをかけたいとの思いを共有する有識者16名が集い、2005年4月に設立されました。

設立以来、日本人のこころのありようについて討議を重ね、2007年に未来を担う子どもたちのためにできることを提言にまとめ、発表しました。提言では、家庭・学校・地域・企業の4つの分野に、それぞれの立場で子どもたちのこころを育むことを「問い」のメッセージとして、呼びかけました。

2008年、この提言内容を全国にムーブメントとして広げていくために、子どもたちの“こころを育む活動”を応援する、全国運動を始めました。毎年、全国各地で取り組まれているこころを育む優れた活動を募集・表彰し、広く紹介しています。

11回目となる2018年度も、たくさんの“こころを育む活動”の応募があり、12月に全国大賞および優秀賞を決定し、翌年の2月に表彰式を開催することができました。また、長野市芸術館において、長野市立城東小学校（2017年度全国大賞）とともに全国キャラバンを行い、多くの方にご参加いただきました。

本書が、“こころを育む”環境づくりのための取り組みのヒントになり、活動の輪がさらに広まるきっかけとなれば幸いです。今後とも変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

提言書

発足から計18回の討議を経て、2007年に提言書をまとめ公表しました。家庭・学校・地域・企業という4つの分野での育みを見直すために、それぞれの立場でできることを「7つの問い」の形で呼びかけています。「7つの問い」とは、家庭に向けては「親（保護者）の姿勢が、子どものこころを創っているという自覚があるだろうか」、学校に向けては「教師は、一人ひとりの子どもに自信をもたせる努力をしているだろうか」、地域に向けては「地域社会は、子どもたちが自立して力強く生きていく力を育んでいるだろうか」など、より具体的な提案をさせていただきました。

提言書の詳細は、「こころを育む総合フォーラム」ホームページでご覧いただけます。
<http://www.kokoro-forum.jp/project/message.php>



Contents [目次]

フォーラムの概要	4
子どもたちの“こころを育む活動”表彰	
全国大賞	6
特定非営利活動法人 パノラマ【神奈川県】	
優秀賞	8
こどものまちミニかぬま実行委員会【栃木県】	
優秀賞	10
非営利任意団体 「生」教育助産師グループ OHANA【愛知県】	
優秀賞	12
大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程【大阪府】	
優秀賞	14
岡山県立誕生寺支援学校 地域との交流会実行委員会【岡山県】	
優秀賞	16
社会福祉法人 心耕福祉会【宮崎県】	
歴代全国大賞 受賞団体	18
パナソニック教育財団 紹介	19

こころを育む総合フォーラム 活動の経緯

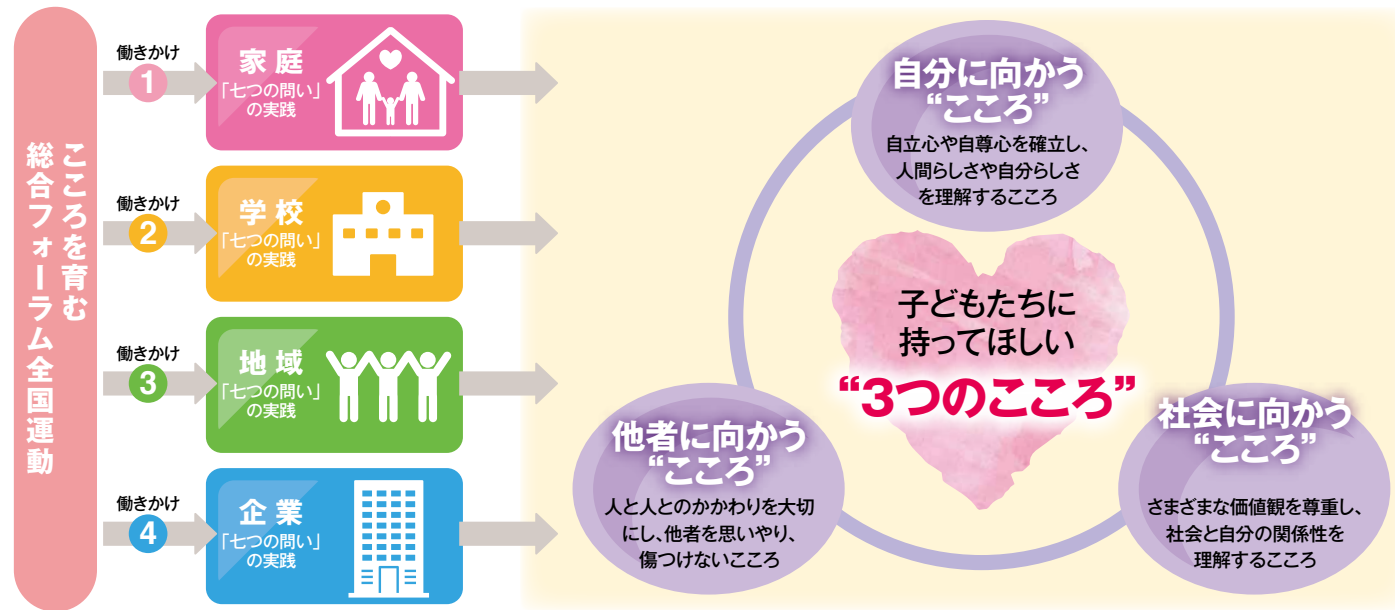
2005年	「こころを育む総合フォーラム」発足 学界、経済界をはじめ各界を代表する16名のメンバーで発足
2007年	議論をまとめた「提言書」をプレス発表 発足から計18回の討議を経て、提言書を公表
2008年	「全国運動」スタート 全国キャラバン、子どもたちの“こころを育む”活動の募集・表彰を開始
2011年	東日本大震災支援活動（トヨタ財団との共同プロジェクト）実施 「子どもの居場所づくりと次世代の育成」に向けた取り組みの支援を実施（～2013年）
2013年	「有識者対談」WEB連載（東洋経済オンラインとの共同企画） 山折座長を中心に有識者メンバーと「日本人としての教養～次世代に継承したいこと」をテーマに対談（～2015年）
2015年	フォーラム活動10年 東京にてフォーラム活動10年特別シンポジウムを開催
2017年	全国運動10年 10周年記念表彰式

フォーラムの概要

全国運動

提言を具現化するために、2008年より全国各地で実践されている子どもたちの“こころを育む活動”を支援する全国運動を呼びかけています。家庭・学校・地域・企業という子どもたちを取り巻く各分野においてそれぞれの立場でできることを意識したさまざまな活動が実践されること、そして子どもたちに持ってほしい“3つのこころ”をバランスよく育むことを目指し、「呼びかける」「紹介する」「ほめる」「広める」の4つの考え方をもとに展開しています。

全国運動のねらい



全国運動を進めるための考え方

呼びかける

全国運動の趣旨をより多くの人に知らせ、共感する個人・団体を増やすと同時に、広く社会一般に問題提起をします。

- パンフレットやホームページを作成し、運動の趣旨を多くの人に知らせます。
- 提言書を発行し、広く社会に呼びかけます。

紹介する

全国各地で実践されている活動をより多くの人に知らせ、それらの活動へ参加・支援するきっかけを作ったり、活動の改善・拡大の機会を提供します。

- 活動報告を作成し、広く一般化できる活動や特徴ある取り組みを集めて紹介します。

ほめる

全国各地で実践されている活動の中から、他の活動の参考となるよい活動を表彰し、活動の元気づけをします。

- 主に学校、全国小学校道徳教育研究会、PTA、NPO団体を通じて、多彩な活動を募集します。
- 他の活動の参考となるよい活動を表彰します。

広める

全国運動を広めるために、運動に関心のある個人・団体同士の交流を図り、情報交換などを促すことで、運動のネットワーク化を進めます。

- 全国で多彩な活動を行う団体のネットワークづくりをします。
- シンポジウムや全国キャラバンを実施します。

2018年度の活動[一年間の取り組み]

全国運動

全国キャラバン2018 in 長野

「全国キャラバンは、こころを育む活動が実践されている地域を訪ね、実践者との交流を通して活動の輪を広げることを目的に開催しています。地域の皆さんとともに子どもたちの健やかな未来を考え、活動の輪を広げる貴重な機会となっています」

開催
テーマ

「共生社会を奏でる」～長野ろう学校との交流を通して～

【2018年11月3日(土) / 会場：長野市芸術館】

2018年は、2017年度子どもたちの“こころを育む活動”全国大賞を受賞した長野市立城東小学校の地元である長野市で開催。長野市のPTA関係者を中心に、子どもたちと保護者の皆様を含む約200名が参加して、活動発表や活発な討議が行われました。

活動発表

城東小学校の先生より、40年以上にわたる長野ろう学校との交流の歩みが紹介され、続いて小学校の合唱団によるコーラスと、交流活動で育まれた両校の子どもたちによるダンスが披露されました。また、柳町中学校の生徒からは、長野ろう学校中学部との交流内容が紹介されました。

パネルディスカッション

テーマ 共生社会形成に向けて
～「交流教育」を通して子供たちが教えてくれたこと～

相川良子氏（ピアサポートネットしゅりや理事長）をコーディネーターに、パネリスト3名（富岡隆二氏:城東小学校 教務主任、宮下紀子氏:長野ろう学校小学部長、古澤潤氏:城東小学校 前PTA会長）がそれぞれの立場から交流活動を通しての気づきや思いを語りました。



城東小学校と長野ろう学校の40年以上にわたる交流の紹介



両校の子どもたちの日頃の交流ぶりがうかがえるダンス

子どもたちの“こころを育む活動”表彰

「子どもたちの“こころを育む活動”に尽力されている団体を全国に紹介し、さらに活動を広げてもらうことを目的に表彰を行っています」

内容

2019年は、2月8日に東海大学校友会館（東京・霞が関）にて「2018年度 子どもたちの“こころを育む活動”表彰式」を開催しました。

表彰式には、受賞団体をはじめ表彰に関わる約70名が参加。全国各地から寄せられた多くの活動の中から6団体を表彰しました。

全国大賞は、「高校内居場所カフェ～先生でも親でもない大人がいる、文化的シャワー提供の場～」をテーマに活動された特定非営利活動法人パノラマが受賞し、優秀賞を5団体が受賞されました。

受賞団体の活動発表では、活動がスタートした背景やさまざまな工夫、参加した子どもたちの成長ぶりが伝わる感想などが、活動を支える皆様の実感とともに紹介されました。

また、表彰式後の交流会は、和やかな中にも活動に関する会話が弾み、活気に満ちたひとときとなりました。会場に展示された受賞団体の紹介パネルや資料などにも、足を止めて興味深く見入る姿が見られました。



当フォーラムの座長、鷲田清一氏から受賞団体へ、賞状と記念の盾、目録を授与する様子



2018年度受賞団体の皆様と小野理事長・鷲田座長他



こどものまちミニかぬま実行委員会【栃木県】

こどものまち「ミニかぬま」

活動領域

学校

家庭

地域

企業

3つのこころ

自分に

他者に

社会に

選考理由

子どもたちが主体的に参画して作り上げる取り組みとして、地域に定着しています。1300名が参加するイベントに発展し、子どもたちには成長が見られます。参加者から運営者に育つ仕組みも評価できます。



楽しく調理をするたこ焼き屋さん、買い物をする市民(右)です。売り手も買い手も、企画もみんな子どもたち。生き生きと表情が輝いて見えます。



大工の店長が、真剣な表情で仕事を教えています。学年やクラスの違う仲間との貴重な交流体験の場です。

活動の概要と目的

まちづくりを通して社会を学び、生きる力を育む

小学生から18歳までが市民になれるこどものまち「ミニかぬま」を、毎年3月に3日間開催しています。

こどものまちでは、子どもたちが食べ物や雑貨などのお店を開き、市民として働いたお給料(ペリー)を使って、自由に買い物や遊びを楽しみます。また、市長選挙や演劇、カラオケ大会などのイベントも自分たちで企画し、実行しています。大人は意見や価値観を押し付けず、安全を見守ることで、子どもたちの創造力が発揮され、アクシデントも子ども同士で協力して対処できています。

子どもたちが、まちづくりから住民自治や社会の仕組みを学び、生きる力を育むことを目的として2011年に活動を開始。回を重ね、子どもたちは目に見えて成長してきました。特に子ども運営スタッフは、ここでの経験を生かし、他の地域活動にも積極的に関わろうになっています。

子どもたちの変化・成長

商品の値段や見せ方、売り方など店ごとに創意工夫が見られます。不測の事態を仲間と乗り越え、自ら助成金申請書を作成し、市長に活動場所の直談判をするなど、自主性や協調性などがしっかりと育まれています。

参加者の声

初参加から約6年、毎年たくさん子どもの笑顔が咲く、色あせないイベントだと思います。「ミニかぬま」は私の居場所です！(高校1年生・子ども運営スタッフ)

人と協力することの楽しさなど、多くのことを学びました。「ミニかぬま」があってこそ、今の自分があります。(中学2年生・子ども運営スタッフ)

準備にとってもたくさんの人が関わっていることを知って、責任感が強くなりました。(小学6年生・子ども運営スタッフ)

店長はお店の準備をしたり、アルバイトにいろいろ教えたりするので、新しいことができて良かったです。(小学4年生・店長)

にせもののおかねで、ほんものがかえて、すごい。(小学1年生・市民)

回を重ねるごとに子どもたちが経験を生かし、積極的に行動しているのがすばらしい。「ミニかぬま」は、子どもたちを大きく成長させる事業である。(協力スタッフ)

3つの工夫

進め方の工夫

子どもの自主性を念頭に置き、子どもたちと一緒に考えるように意識しています。まず年間スケジュールを立て、課題を解決する方法を子ども運営スタッフと一緒に考えます。定期的にも会議の場を設け、共通理解を図って子どもたちに寄り添うように配慮。店長は、店長教育を十分に話し合ったうえで実施しています。

連携の工夫

実行委員のネットワークを活かした物品調達や協力者募集を行っています。会議での話し合いに加え、グループラインを活用して情報を共有。他地域のこどものまち主催者との交流も図るようにしています。実行委員も協力スタッフも、大人が楽しく関わることができるように配慮しながら、活動を続けています。

継続の工夫

助成金を申請し、地域企業や個人から協賛を得ることで資金を調達。毎回、新たに実行委員会を結成し、組織化することで、一部の実行委員の負担が大きくならないように配慮します。子どもたちの「ミニかぬま」が好き！という気持ちを大切に、参加した子どもたちが楽しく過ごせる工夫を、子どもたちと一緒に考えています。

将来の活動の方向性

子ども運営スタッフを経験した卒業生が、今後実行委員となって運営組織を盛り上げていけるように、活動を導いていきたいと考えています。また、こどものまち「ミニかぬま」が、鹿沼市民全体から温かく応援してもらえる事業へと進化することが目標です。

活動の特長

子どもがつくる「こどものまち」

子どもがつくる『こどものまち』は、国際児童年の1979年にドイツで行われた「ミニミュンヘン」を発祥として、日本各地に広まりました。

鹿沼市では2011年から毎年1回開催し、2019年で9回目を迎えます。

子どもたちは、出店やイベントの企画から実施、アクシデント対応まで主体的にまちづくりを経験し、大きく成長。大人は見守りに徹することで、子どもたちの能力を十分に引き出すことができています。

まちづくりで社会を学ぶ子どもたち

店長は、商品がどうしたら売れるかを考えて、価格や見栄え、売り方にも工夫をこらします。さらに、学年やクラスの違う仲間と協力しながら「材料がなくなった」「機械が壊れた」などの問題を自分たちで解決する力を身につけています。また、人の喜ぶ姿をうれしく思い、相手を思いやるこころの成長が見られました。働くことやお金の価値観、人との関わり方など、まちづくりから社会の仕組みを自然に学んでいます。

目に見える成長と未来に花開く成長

助成金が不採択となり、活動場所に困ったときに市長に直談判したり、活動を地域へ広げるために学校長にチラシ配布の依頼をしたりと、自らの意思で社会に向かい、大人を動かす力を持った子どもたちも輩出しています。

店長の奮闘や運営面での対応力、助け合いなど、準備段階や当日に見られる成長に加え、子どもたちの中で経験として蓄えられ、未来の大切な場面で花開く、今後の成長にも期待が持てます。



スイーツ屋さんの前は大賑わい。作り手も、買い手も、ひと休みして会場を眺める子も、みんないい笑顔です。



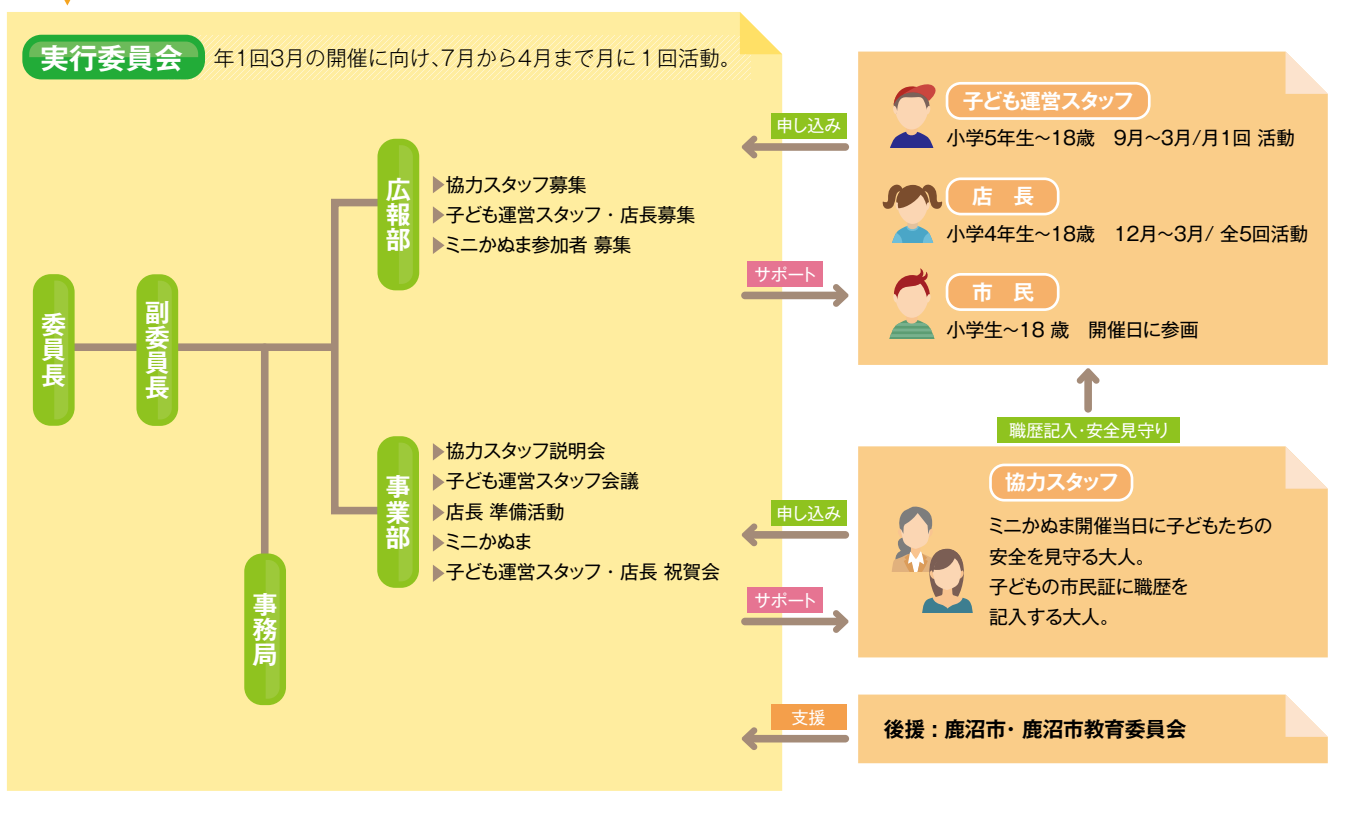
ヘアサロンでは、素敵な編み込みスタイルに変身中。この日の経験が、将来の夢につながる可能性もありますね。



つゆを注ぐうどん屋さん、表情は真剣そのものです。多彩な店で賑わうまちでは、イベントや市長選も行われています。

活動の広がり

大人も楽しめて、負担の集中しない組織づくりや、活動の仕組みが継続の鍵となり、協力者が集まるポイントになっています。



連絡先

●所在地：〒322-0072 栃木県鹿沼市玉田町60-2 ●TEL：070-1374-7097 ●FAX：0289-78-4988
 ●E-mail：pro-sora@one.bc9.jp
 ●代表者：篠原 徹(実行委員長) ●担当者：御地合 直美(事務局長)

優秀
賞

非営利任意団体「生」教育助産師グループ OHANA【愛知県】

未来ある子ども達の生きる力と心を育む
助産師の「生」と「性」の教育活動

活動領域

学校

家庭

地域

企業

3つのこころ

自分に

他者に

社会に

選考理由

近年、公教育では扱いにくいとされている複雑化した性教育をうまく補完し、児童養護施設での実施も評価できます。2017年は55講座実施、5年間で累計1万人強の参加者を得るなど活動の広がりが見られます。



子宮内に見立てた袋に入り、胎児の気分を味わう体験の様子です。袋から出る子どもには「がんばれ」「おめでとう」の声がかけられます。



左は、妊婦ジャケットを装着し、母の思いを体感している様子です。右は、子宮とへその緒を表す手作りの教材で出産を具体的に伝えています。

活動の概要と目的

助産師の経験を生かした「生」と「性」の教育活動

学校などの教育機関と連携を図り、助産師の視点で生と性を伝える『いのちの授業』を出張形式で行っています。活動を通して子どもたちにいのちの尊さを伝え、青少年の性被害や自殺防止、親の子育て支援や虐待予防、家庭での性教育の支援となることを目的としています。

授業では、いのちの始まりや胎児の成長、誕生の仕組みなどをわかりやすく説明。学年による成長発達段階を考慮し、学校側の意向に合わせて、生と性の両面から内容を構成しています。教育機関に出向くことで、広く子どもたちの《自尊感情》や《自己肯定感》を高めることができています。

公共施設や民間施設では、学年や男女別の親子参加、保護者のみの参加など、対象ごとに性教育に関する教室を開催し、相談にも応じています。

児童養護施設では、生徒・職員を対象とした講座や相談事業を展開し、地域によるサポートの必要性が周知されることを目指しています。

子どもたちの
変化・成長

いのちが無事に誕生する奇跡を知り、親への感謝とともに、自分が大切な存在であるとの《自尊感情》や《自己肯定感》を高められています。また、友達や異性の存在も、自分同様に大切に思うところが生まれています。

参加者の声

げんきにうまれてくるのは
きせきなんだとおもいま
した。おかあさんにかん
しゃしたいです。これから
もいのちをたいせつにし
ます。(小学2年生)

お母さんが一生けん命産
んでくれて「自分は大切
なそんざいなんだ」と思
いました。この授業がな
かったら「自分なんか」と
思っていたと思います。
(小学4年生)

クラスの一人ひとりがあ
んなふうに感動的に生ま
れてきたと考えると、うれ
しくなります。ここまで大切
に育ててもらって、親には
感謝でいっぱいです。
(高校生)

男の子への性教育の話が
聞けて良かった。なか
か他に聞いたり、相談し
たりできなかったので!!
(男の子のお母様)

この授業を一人でも多く
の子が聞いてくれたら、今
起こっている青少年に関
する多くの事件が一つで
も減るのではないと思い
ました。
(小学校校長先生)

3つの工夫

進め方
の工夫

活動内容が分かるパンフレットや教材を作成し、教育機関や公共機関に配布。ネットでの告知も随時行っています。また地域の各機関の方々と情報を共有し、必要に応じて連絡や相談ができるように心がけています。一宮市市民活動支援センターの相談窓口も利用し、運営について常に相談しながら進めています。

連携
の工夫

年度始めには、実施予定の教育機関に活動内容や活動報告を書面で配布し連携を図っています。授業が学校での教育内容と合致してより効果的に子どもたちのこころに届くように、出張授業の前には必ず打ち合わせを実施。内容に関する学校側の希望と教材の使用について、多様な家庭環境に配慮しつつ確認しています。

継続
の工夫

教育機関に必要な教育活動と認識してもらうため、授業後に子どもたちの感想を書いてもらい、効果が伝わるようにしています。今後は、公的な事業として多くの子供たちに分け隔てなくいのちや人権について考える機会が提供できるよう、教育委員会や市への働きかけをより一層行っていきたいと考えています。

将来の活動
の方向性

一宮市内すべての小中学校で授業ができるように、公共事業化を目指しています。また、今後は児童養護施設での活動がロールモデルとなり、地域の方々に「さまざまな境遇だからこそ地域社会のサポートが必要」と認識していただけることを目指しています。

活動の特長

助産師だからこそ響く言葉がある

助産師は、出産に立ち会うだけでなく、子どもたちの健やかな「生」と「性」を守る予防教育の役割もあると考え、2013年より教育活動を開始しました。

生命誕生の現場で働く助産師だからこそ、「生」と「性」の両面からいのちの大切さを伝え、子どもたちのこころに響かせる力があります。また、助産師だから相談できることも多いはず。活動では、子どもの自殺や性被害、虐待の予防、子育てや性教育の支援を目指しています。

尊さを体感する『いのちの授業』

『いのちの授業』では、子宮に見立てた袋に入って胎児気分を味わったり、妊婦ジャケットをつけて母の気持ちを想像したりと、いのちの誕生を体感できる仕掛けが盛り込まれています。子どもたちは、誕生の奇跡を印象深くこころに刻むことで自尊感情・自己肯定感を高め、他人を大切に思うこころの成長につながっています。さらに家族や周囲への感謝、性別を超えて互いの存在を認めあうこころが生まれています。

1万人強の参加者から地域へ未来へ

活動開始の2013年には5講座で80名だった聴講者が、2017年には55講座で5,230名となり、5年間で累計11,810名に。『いのちの授業』で得た子どもたちのこころの成長は未来をつくる学びとなり、家族や他者、社会に拡大できるのがすばらしい点です。「生」と「性」の教育を受けた人が増えることによって、自殺や性被害、虐待の防止に役立ち、今後は地域全体のこころの平和につながることを期待しています。



カードに開いた針の穴が受精卵と同じ大きさと聞き、いのちの始まりに驚きながら、じっと見つめる子どもたち。



クイズに答えたり、胎児の画像を見ながら誕生までのストーリーを知り、いのちの大切さを考えます。



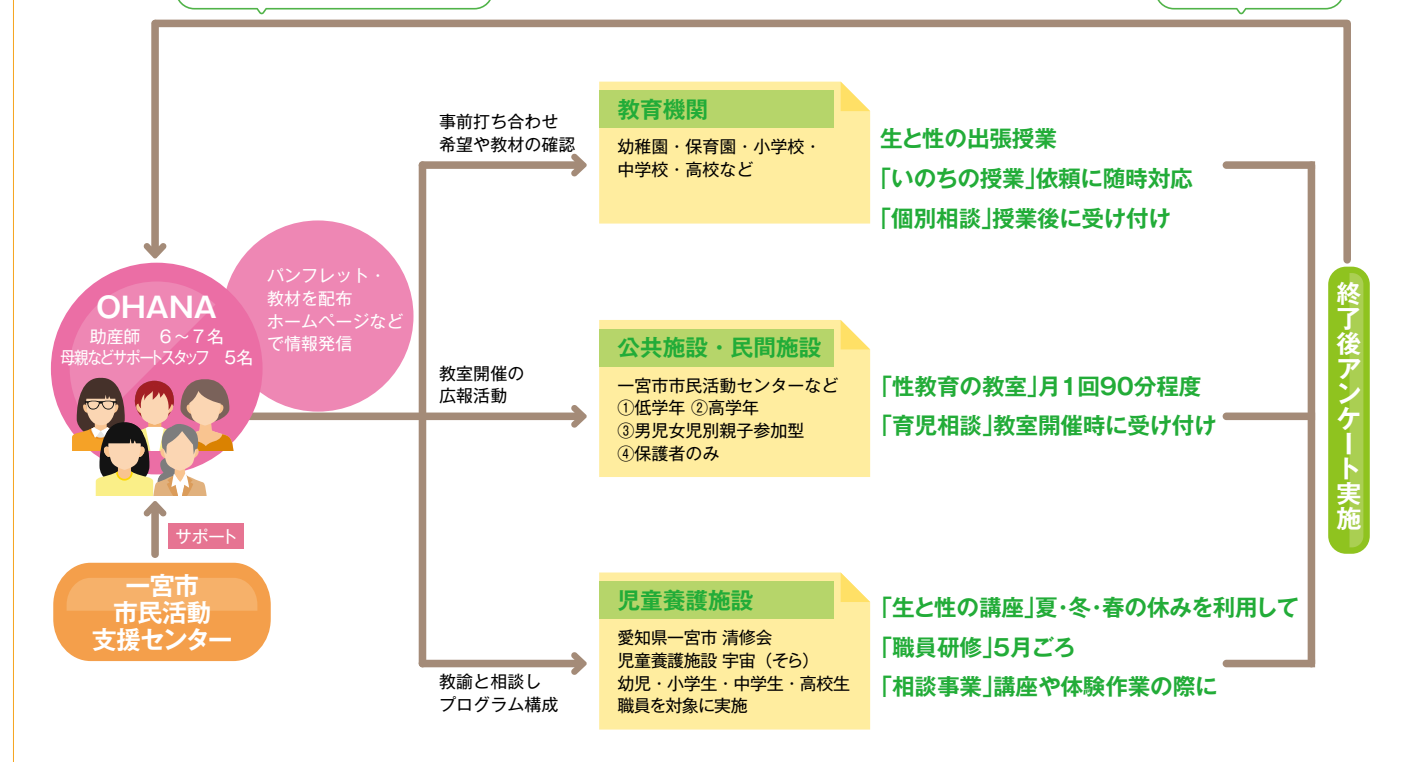
胎児の人形をやさしく胸に抱く女の子。子どもの成長段階に合わせた教材への配慮や、大切なことを自然に感じられる伝え方の工夫が生きています。

活動の
広がり

活動を始めた2013年は5講座の開催実績でしたが、次第に評判が広まり、4年後には年間55講座を実施し、参加者が累計1万人を超える活動に成長しました。

感想は活動の励みになっている!

事業の効果を確認



連絡先

●所在地：〒491-0931 愛知県一宮市大和町馬引郷東 1-12 ●TEL：090-9747-7821 ●FAX：0586-43-4696
●E-mail：ohana.mw2013@gmail.com ●HP：http://ohanamidwife.jp/
●代表者／担当者：坂井 桃子（会長）

優秀
賞

大阪府立堺工科高等学校 定時制の課程【大阪府】

「ゆめ・チャレ」プロジェクト
～地域の職業体験を通して「こころを育む」～

活動領域

学校 家庭 地域 企業

3つのこころ

自分に 他者に 社会に

選考理由

商店街協力による小学生のキャリア教育を、定時制高校の生徒がサポートする部分が特徴的です。高校生が主体性を発揮しつつ、こころの成長を果たしています。参加者、協力者の双方に利益を生む仕組みが評価できます。



仕事体験後にもらったお給料をうれしそうに持つ小学生と体験をサポートした高校生、協力した地域商店街の人。三者にウィンウィンの関係が成り立つ「ゆめ・チャレ」プロジェクト。



小学生が仕事体験後にもらうお給料袋。地域通貨800ユーメ（800円相当・有効期限1か月）を使って商店街で買い物ができます。

活動の概要と目的

高校生と小学生のキャリア教育、地域商店街の活性化をめざす

「ゆめ・チャレ」とは、「ゆめに向かってチャレンジ」の略称。定時制高校の生徒が中心となり、地域の商店街と協力して、小学生に職業体験をしてもらう活動です。

高校生のサポートのもと、小学生は職業体験をして「修了証」と「お給料」（地域通貨）をもらい、商店街のお店で買い物ができます。小学生と高校生のキャリア教育、地域商店街の活性化を目的に行っています。高校生はこの活動により、自分に自信を持ち、他者を思いやる気持ちやボランティア精神を培い、「自己有用感」（自分は社会にとって必要だと思えるこころ）を高めています。

2013年に第1回を実施（10店舗10体験、応募者107人、参加者68人）以来、体験内容の充実と体験数の増加に力を入れ、2018年の第6回では、31店舗58体験、応募者720人、参加者275人という事業に成長しました。この間新聞やテレビで多数紹介され、近年は府内の高校はもとより、他府県からの視察や講演依頼も増えており、注目されています。

子どもたちの
変化・成長

高校生は自分に自信を持ち、他者を思いやる気持やボランティア精神を培い、感謝されることにより「自己有用感」を高めています。コミュニケーション能力やよき社会人となるための職業観も育っています。

参加者の声

地域の方々や小学生にたくさんの「ありがとう」の言葉をいただき、「定時制高校」に誇りを持つことができました。（2年生）

「ゆめ・チャレ」により、普段は人通りが少なく、シャッターの目立つ商店街が、たくさんの人で賑わうようになり活気を取り戻した。（2年生）

仕事体験中に小学生から頼りにされていることを実感することができた。人の役に立てることがとてもうれしかった。（3年生）

単なる職業体験ではなく、私たち高校生が、企業・店舗の方々から仕事についてさまざまなことを学び、学んだことを小学生に教える。「教えられる側」と「教える側」の両方の立場に立ち、それぞれの仕事について深く理解することができた。（3年生）

仕事体験後、「お給料（ユーメ）」を手渡す時の小学生の笑顔がとても素敵で、初めてもらった「お給料」を大切に使用していた。自分のほしい物ではなく、保護者のために使う小学生もいて、心が温かくなった。（3年生）

3つの工夫

進め方の工夫

初回は10体験でスタートし、体験を希望する小学生が年々増加。受け入れ態勢を充実させるため、地域の企業・店舗に活動の趣旨、内容を丁寧に説明し、協力を得られるよう努力しています。小学生の各職業ユニフォームも種類と数を増やしています。

連携の工夫

地域連携をするために一番大切なことは、お互いがウィンウィンの関係になることです。小学生は無料で職業体験ができてお給料がもらえ、高校生はキャリア教育にもなり、企業・店舗側はお給料による買い物で潤う「三方よし」の仕組みです。

継続の工夫

継続している最大のポイントは、企画・運営する高校生、協力していただく企業・店舗、参加する小学生および保護者の方々、関わるすべての人たちが心から楽しんでいることです。さまざまな賞をいただいたり、マスコミに取り上げられたりすることも励みになっています。

将来の活動の方向性

夜間定時制高校生が「自己有用感」を育みながら未来に希望を持ち、地域の方々をはじめ多くの人が笑顔になれる活動を続けていきます。また、この活動を他地域に広げる広報活動も展開していきたいと考えています。

活動の特長

■ 定時制高校生の自信と職業観を養う

自分に自信が持てず、基本的な生活習慣が身についていない傾向がある定時制高校生が、小学生や保護者から「ありがとう」という感謝の言葉をもらい、「自己有用感」を高めることができます。また、高校生が企業や店舗から仕事を教えてもらい、それを小学生に教えるという両方の立場を経験することにより、コミュニケーション能力が身につくとともに、働くことの尊さを理解し、よき社会人となるための「職業観」を養っています。

■ みんなのためになる「三方よし」の取り組み

小学生と高校生のキャリア教育、地域商店街の活性化を組み合わせた珍しい取り組みです。小学生は「キッズニア」のように各職業にあったユニフォームを着用して職業体験ができ、「修了証」と「お給料（地域通貨800ユーメ・800円相当・有効期限1か月）」をもらい、商店街のお店で買い物ができます（参加費無料）。商店街の企業や店舗は職業体験に協力することで、技術を知ってもらえる、売上が上がるなどのメリットがあります。

■ 社会貢献に目覚め、広がる活動

この活動を通して生徒は社会貢献に目覚め、「ゆめ・チャレ・キャンドルナイト」や「ゆめ・チャレ・ハロウィン」などのイベント、清掃活動やあいさつ運動など、地域の活性化に取り組んでいます。また、他の地域に「ゆめ・チャレ」を広げるため、各地に赴いてプレゼンテーションをする広報活動ができるまでに成長しました。他府県においても取り組んでもらいたい活動です。

活動の
広がり

すべての企画・運営は大阪府立堺工科高等学校定時制の課程で行い、「文部科学省・経済産業省」や「大阪府教育委員会」の協力のもと、地域の多数の団体が協力体制を作り、運営に関わっています。

活動開始からの5年間にさまざまなマスコミで取り上げられ、府内外から視察や講演依頼が多数あるほか、文部科学省・経済産業省のキャリア教育「優秀賞」、読売教育賞「最優秀賞」、時事通信社教育奨励賞「優秀賞」を受賞しました。

大阪府立堺工科高等学校定時制の課程

教職員31名、生徒数135名

職員・生徒が一丸となり、各チームに分かれてそれぞれの活動を行っている。

- ▶企画・運営チーム
- ▶職業体験チーム
- ▶企業・店舗新規開拓および趣旨説明チーム
- ▶地域通貨「ユーメ」使用店舗開拓・「ユーメ」作成チーム
- ▶チラシ作成チーム
- ▶ユニフォーム管理チーム
- ▶広報チーム

近隣地域協力団体・企業・店舗

- 堺市之口連合商店街振興組合「ゆめチャレ」会場提供（約20名）
- 堺ユネスコ教会教会地場産業関係担当（約10名）
- 堺北ロータリークラブ広報・後援（約40名）
- 大小路界隈夢倶楽部会場備品および消耗品担当・会場設営（約5名）
- 堺銀座商店街次期開催の視察・打ち合わせ（約100名）

官公庁関係

- 文部科学省・経済産業省「キャリア教育推進連携表彰」優秀賞受賞の広報
- 大阪府教育委員会「学校経営推進費」支援校・「教育諸活動支援事業」認定校ユニフォーム購入資金・講師謝金等の負担
- 大阪府堺市「ゆめ・チャレ」・「ゆめ・チャレ・キャンドルナイト」・「ゆめ・チャレ・ハロウィン」など各イベントの協力およびホームページ、チラシなどによる広報

近隣小・中・高等学校および大学

- 堺市立の多数の小学校（約800名）
- 堺市立金岡南中学校「ゆめ・チャレ・キャンドル・ナイト」参加および運営協力（約10名）
- 堺市立三原台中学校「ゆめ・チャレ・キャンドル・ナイト」参加（約5名）
- 大阪府立だいせん聴覚高等支援学校「ゆめ・チャレ」協力（約5名）
- ブール学院短期大学「ゆめ・チャレ・ハロウィン」協力（約20名）
- 摂南大学「ゆめ・チャレ・ハロウィン」協力（約15名）



和食店の体験で、小学生にやさしく手を添えて包丁の使い方を教える高校生。



小学生が本格的なユニフォームを着て行う仕事体験。参加希望者が増えている理由のひとつです。



木工体験をする小学生を、高校生が地域の人に教えてもらいながら丁寧に指導します。

優秀
賞

社会福祉法人 心耕福祉会【宮崎県】

ソダツバヒカリ

～私たちの未来のためにすべてがつながっていく～

活動領域

学校

家庭

地域

企業

3つのこころ

自分に

他者に

社会に

選考理由

7つの支援事業を行い、地域の幼児から高齢者までのさまざまな“居場所”になっています。各事業を連動させて問題解決の方向へ結び付けている点、支えられた人が支える側に回り、活動を継続している点も評価できます。



地域の人に提供していただいた田んぼで、稲刈りを終わせた学童の様子。



学童・放課後支援事業。支援が必要な生徒と一般の生徒が協力しながら焚火で焼き芋を作ります。

活動の概要と目的

みんなで関わって、みんなで考えて、みんなで育つ場

ソダツバヒカリとは、みんなが一緒に＜育つ場＞です。幼保連携型認定こども園「ひかりの森こども園」を中心に、学童期の長期休暇を有意義にすべく、異年齢で学びあう「寺子屋」、幼児、小中学生、親、シルバー世代が食事を提供する側、される側という垣根をなくし、空間と時間を共有する「こども食堂」、不登校児やハンディキャップを持つ子どもも含めて、放課後の学習支援や療育活動を行う「学童・放課後支援事業」のほか、貧困層への食品支援、地域サロンなどの事業を行い、地域の子どもと大人、みんなで関わって、みんなで考えて、みんなで育つ事業を展開しています。

「こども食堂」では、不登校児、ハンディキャップを持つ子どもが支える側に回ることによって自分の存在意識を高めることができるほか、「学童・放課後支援事業」では、異年齢児の縦の関係、横の関係が成り立ち、コミュニケーション能力の発達を促し、協力する心が育まれています。

子どもたちの
変化・成長

こども食堂、寺子屋、放課後児童デイ、学童クラブなどで自分の居場所を見つけた子どもたちは、自己肯定感を持って具体的未来を考える力がついています。異年齢でかわり合う中で、コミュニケーション能力の成長も見られます。

参加者の声

支援学級の友だちも、普通学級の友だちも、放課後は一緒に遊べて楽しかった。もっともっと遊びたい！（小学2年）

地域の方に貸していただいた田んぼで収穫したお米はおいしく、大切に食べなければと感じた。（小学5年）

中学生でも困っている人を助けることができることを実感できました。人の役に立つことを自分たちでもやっていきたい。（中学3年）

こども食堂に来ると、小学生、中学生、子育て中のパパ・ママ、赤ちゃんと同じ空間でご飯を食べられるのはうれしくもあり、楽しい日です。（地域高齢者）

3つの工夫

進め方の工夫

ソダツバヒカリの中心となる＜アソブバ＞、＜マナブバ＞、＜イノチノバ＞の考え方を理解し、すべての事業が協力しあひながら進んでいます。

連携の工夫

学習支援、子育て支援、貧困世帯支援、発達支援、放課後児童支援、地域シルバー世代支援のメンバーが横のつながりで情報共有できていることで、スムーズな事業展開が可能となっています。問題解決の方向性を利用者に提示できるよう連携しています。

継続の工夫

一つの地場でお互いの事業を支援しあひながら取り組んだり、支えられた人が支える側に回ったりして、途切れない連携ができつつあります。また、支援者が疲弊し、事業が途切れることのないよう、外部支援事業者の拡充にも努めています。

将来の活動の方向性

発達障害支援など専門性を持つ支援団体の協力を得ながら、事業内容を充実させていく予定です。また、各事業の連携を深めながら、地域から社会へ視野を広げるような新しい事業の計画も行っていきたいと考えています。

活動の特長

■ お互いの事業を支援しあう、7つの施設の集合体

ソダツバヒカリは、7つの施設の集合体。「ひかりの森こども園」を中心に、放課後児童クラブ「キッズリターンクラブ」、放課後児童デイ「いっぽのひかり」、「寺子屋」、「こども食堂」、「子育て支援講座」、「ピオトープガーデンカフェ」があります。一つの拠点で関係性のある事業を連動させることで、相互に支援しあい、問題解決の糸口が広がるという利点があります。たらい回しにならない連携を行っています。

■ 支えられた人が支える側に回り、途切れない連携

「ひかりの森こども園」の屋敷園長が住職を務める光明寺で15年前に始めたのが寺子屋です。メディアに依存しがちな長期休暇に子どもたちを集め、静寂の中で学びあいがら、お互い様の心を育てます。寺子屋を卒業した学生たちが「先生」として支援する側に回っています。また、こども食堂では、子どもたちも調理や配膳を手伝います。学校以外の居場所を見つけたことで、自己肯定感を強め、社会の中で活動する勇気を持てるようになっていきます。

■ 異世代・異年齢での時間と空間の共有が主体性を育む

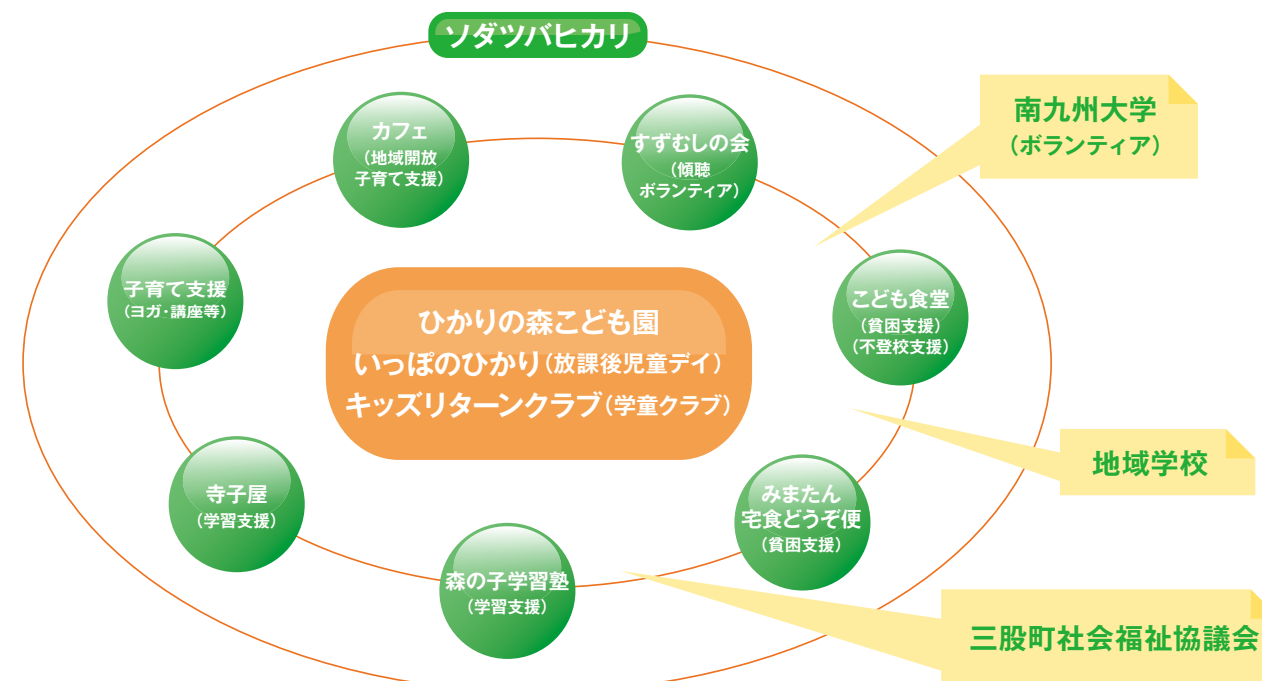
月2回開くこども食堂「りりん」は、三股町の傾聴ボランティア団体「すずむしの会」が中心となり実施しています。貧困世帯の支援のほか、地域の高齢者の孤立を防ぐ狙いもあり、子どもたちと高齢者の交流の場として機能しています。どの事業にも共通する異年齢での時間、空間の共有によって、学びあう力、支えあう力、譲りあう力、リーダーシップをとる力が身につく、子ども主体の活動へとつながっています。

活動の
広がり

ソダツバヒカリは、学習支援、障害児支援、貧困支援の3つを事業の柱にしています。学習支援では、キッズリターンクラブ、いっぽのひかり、寺子屋を合わせて、延べ100名を超える子どもたちが利用しています。

2018年4月、三股町社会福祉協議会と連携した食材宅配型フードバンク事業「みまたん宅食どうぞ便」がスタートしました。18歳以下の子どもがいる希望家庭に対して月に1度無料で食材を配達するという取り組みで、「こども食堂」から一歩踏み出した現物的支援です。

また、経済的問題、その他の理由で勉強の進み具合が遅れている子どもたちの勉強をサポートする夜間学習塾「森の子学習塾」という新たな事業も始まりました。



寺子屋で自主的に夏休みの課題に取り組む子どもたち。静寂の中で学びあう関係性を育みます。



こども食堂の様子。地域の子どもたち、高齢者、ボランティアで餅をつき、丸めます。



こども食堂の餅つきには、三世代、四世代で地域の方が参加しました。もち米を蒸す人、餅をつく人、丸める人。異世代で協力しあう行事です。

連絡先

●所在地：〒889-1901 宮崎県北諸県郡三股町榊山3000-2 ●TEL：0986-52-1376 ●FAX：0986-52-1386
●E-mail：contact@sodatsuba-hikari.com ●HP：http://sodatsuba-hikari.com
●代表者／担当者：屋敷 和久（理事長・園長）

歴代全国大賞受賞団体 2008年度～2017年度

2008
年度



公益社団法人 群馬県助産師会 (群馬県)
〒373-0018 群馬県太田市丸山町250-7/TEL.0276-37-5198

テーマ **子どもの自己肯定感を育む「いのちの講座」**

2009
年度



山形県立置賜農業高等学校演劇部 (山形県)
〒999-0121 山形県東置賜郡川西町大字上小松3723/TEL.0238-42-2101

テーマ **農業高校の視点から、食を伝える食育ミュージカル**

2010
年度



特定非営利活動法人 オバパト隊 (熊本県)
〒862-0913 熊本県熊本市尾ノ上1-39-15/TEL.096-381-2447

テーマ **高齢女性パトロール隊による、安心安全な子育て環境づくり**

2011
年度



石榑の里コミュニティ (三重県)
〒511-0266 三重県いなべ市大町石榑南611いなべ市立石榑小学校内/TEL.0594-78-0002

テーマ **地域全体で子どもを守り育てるための学校と地域による組織づくりと協働活動**

2012
年度



東中ファミリーサポーターズ・東中地域活性隊 (兵庫県)
〒664-0021 兵庫県伊丹市高台2-54伊丹市立東中学校内/TEL.072-782-3058

テーマ **地域・学校・家庭と生徒たちによる循環型の地域活性活動**

2013
年度



熊本市立出水南小学校 (熊本県)
〒862-0941 熊本県熊本市中央区出水4-1-1/TEL.096-363-5671

テーマ **小学校と支援学校の子どもたちが学び合い、成長し合う交流活動**

2014
年度



仙台市立南吉成中学校 (宮城県)
〒989-3204 宮城県仙台市青葉区南吉成5-18-2/TEL.022-277-4377

テーマ **大震災から学び、前に進む力を培う、復興支援活動と防災教育**

2015
年度



鹿角市立八幡平中学校 (秋田県)
〒018-5141 秋田県鹿角市八幡平字諸田4-1/TEL.0186-32-2226

テーマ **郷土愛を育み、人間関係力を培う八幡平ボランティアガイド**

2016
年度



和歌山県立熊野高等学校 Kumanoサポーターズリーダー部 (和歌山県)
〒649-2195 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来670/TEL.0739-47-1004

テーマ **地域に根ざし、地域に貢献する高校生リーダーを目指して**

2017
年度



長野市立城東小学校 (長野県)
〒380-0803 長野県長野市三輪6丁目14番30号

テーマ **共に学ぶ長野ろう学校との41年目の交流活動～共生社会の形成に向けて6年間の継続交流～**

●詳しい活動内容はホームページで紹介しています。

パナソニック教育財団 事業の紹介 「未来をつくる創造力と豊かな人間性」を育む

パナソニック教育財団は、1973年にICT教育の振興を目的に設立され、40年以上にわたって、小中高等学校等の教職員や研究グループを支援し、ICTを活用した教育の普及・拡大を目指し、研究・助成活動に取り組んできました。

現在は、2005年に立ち上げた「こころを育む総合フォーラム」と合わせ、公益活動の両輪とし、次世代を担う子どもたちの「未来をつくる創造力と豊かな人間性」を育む活動を行うとともに、その活動内容や研究成果を幅広く発信しております。

学校教育に対する 研究・助成事業

「未来をつくる創造力と確かな学力」を培うために、ICTを活用し、実践研究に取り組む教育現場に対して助成等を行う事業

こころを育む 総合フォーラム

明日の未来を担う子どもたちのために、「豊かなこころを育む活動」を広げ続けていく事業

学校教育に対する研究・助成事業 2018年度活動

実践研究 助成

ICTを効果的に活用して、教育内容及び教育方法の改善等に取り組む実践的研究を募集（前年度の12月～1月）「一般」と「特別研究指定校」の2種類

一般

- ①助成金…… 1件あたり50万円
- ②助成期間 1年間
- ③助成件数… 73件

特別 研究

- ①助成金…… 1件あたり150万円
- ②助成期間 2年間
- ③助成件数… 4件

4月に助成金の贈呈を行い、1年間授業実践と研究活動を行い、翌年の夏休みに成果の発表を行います。



助成金の贈呈



実践活動



成果の報告

共同研究

学校現場でのICTの活用をより効果的にするために、関係団体等と共同研究を実施



<https://navi.ictconnect21.jp/sv/>

ICT機器の整備を必要とする各自治体の情報教育担当者向けの「教育ICT担当者コミュニティサイト」の開発研究。



日本教育工学協会（JAET）全国大会のワークショップにおいて、ICTを活用した実践事例と授業づくりのポイントを発表。

公益財団法人 パナソニック教育財団 ▶ <http://www.pef.or.jp/>

●詳しい活動内容はホームページで紹介しています。